NEWS RELEASE

ｐｒｔ株式会社 すららネット
2017 年 1 月 11 日

～「小中高生の勉強に関する意識調査 2017」～
“親よりランクの高い学校に行きたい”小中高生の割合は？
中学生の 7 割以上が教育の 2020 年問題に不安感
小中高生が勉強を教えてほしい芸能人は 3 年連続で「櫻井翔」さん

クラウド型学習システム「すらら」を展開する株式会社すららネット（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：湯野川孝彦）では、「小中高生の勉強に関する意識調査 2017」を小学生から高校生までの男女に実施しました。

【トピックス】

1）教育の 2020 年問題に不安を感じる中学生は 7 割以上

2）アクティブ・ラーニング好き 7 割以上、将来必要なスキルが身につけられると思う 8 割以上

3）小中高生の 8 割が「自分は頑張れば勉強ができる」、男女別では女子がより高い傾向

4）小中高生の半数以上が「親よりランクの高い学校に行きたい」

5）小中高生が勉強しやすいのは「紙教材」より「デジタル教材」

6）小中高生が勉強を教えてほしい芸能人、3 年連続「櫻井翔」さんがトップ

＜調査概要＞

【2017 年】

1） 調査名　　：小中高生の勉強に関する意識調査 2017
2） 調査方法　：クラウド型学習システム「すらら」のログイン画面にて回答を得た
3） 調査対象　：小学 1 年生から高校 3 年生までの男女
4） 調査期間　：2016 年 11 月 25 日～2016 年 12 月 16 日
5） 有効回答数：720 名＜男子：58.2%・女子：41.8%、小学生：13.3%・中学生：76.1%・高校生：10.6%＞

注：パーセンテージの計算は少数第 2 位を四捨五入し、少数第 1 位まで記載しているため、合計が 100%にならない場合があります

※本リリースの調査結果をご利用頂く際は、「すらら ネット調べ」とご明記下さい。

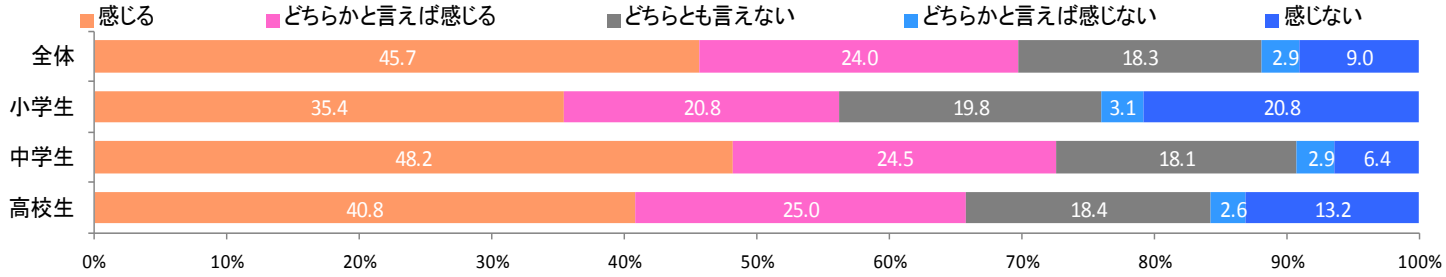
1)教育の 2020 年問題に不安を感じる中学生は 7 割以上

小中高生に対して、2020 年度より大学入試センター試験が新テストに変更予定であるなか、入試内容の変更に不安を感じるか聞いたところ、「感じる」計が 69.7%(「感じる」(45.7%)、「どちらかと言えば感じる」(24.0%))と、約 7 割にのぼっており、不安に感じている割合が高いことがわかりました。学校種別に不安を「感じる」計の割合を見てみると、中学生が 72.7%で最も高く、次いで高校生が 65.8%、小学生が 56.2%の順となりました。

2020 年度から行われる予定の新テストの対象が現中学 2 年生以降であることからか、中学生が最も不安に感じている割合が高くなっています。また、高校生は大学受験への意識が高まっているなか、新テストの対象ではないものの、既に入試の内容を変更している大学も出てきており、不安に感じている割合が高くなったのではないかと考えられます。小学生は新テストの対象であるものの、まだまだ大学受験に対し当事者意識は薄いようで、最も割合は低くなっています。ただし、それでも半数以上が不安に感じていることがわかりました。

※教育の 2020 年問題:2020 年度から大学入試センター試験に代わる新テストが開始される予定。国語や数学で記述式問題が導入されることなどが現在、話し合われている状況。

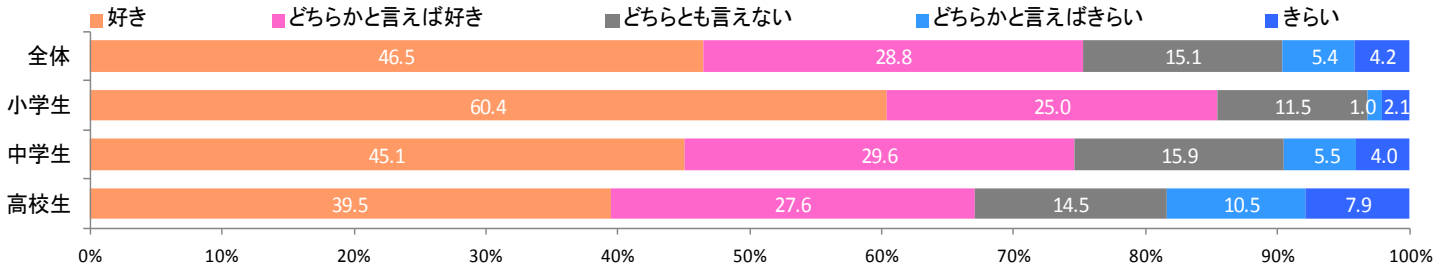
■結果:「大学入試が 2020 年度から変わろうとしています。今と入試内容が変わることに不安を感じますか?」の回答(単一回答)



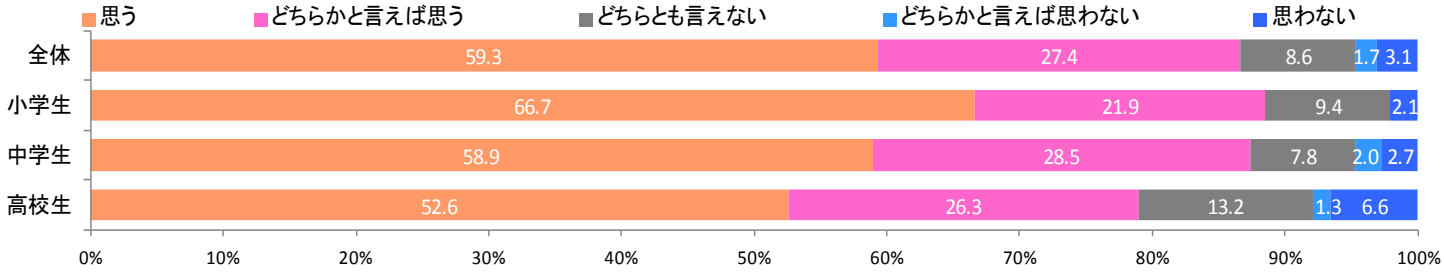
2)アクティブ・ラーニング好き 7 割以上、将来必要なスキルが身につけられると思う 8 割以上

小中高生に対して、「アクティブ・ラーニング」のように、積極的に仲間と話し合ったりしながら学ぶことは好きか聞いたところ、「好き」計が 75.3%(「好き」(46.5%)、「どちらかと言えば好き」(28.8%))と、新学習指導要領に盛り込まれる方向のアクティブ・ラーニングに好意的な様子が見られます。学校種別に見てみると、「好き」計において、小学生は 85.4%、中学生では 74.7%、高校生では 67.1%で、より早くからアクティブ・ラーニングに慣れ親しんでいる小学生のほうが、この新しい学習方法を受け入れ、好んでいるようです。また、この学習の仕方は将来的に必要となるスキルを身につけることができると思うかの回答として、「思う」計が 86.7%と、好きなだけではなく有用性も感じている様子が見て取れます。

■結果:「積極的に仲間と話し合ったりしながら学ぶことは好きですか?」の回答 (単一回答)



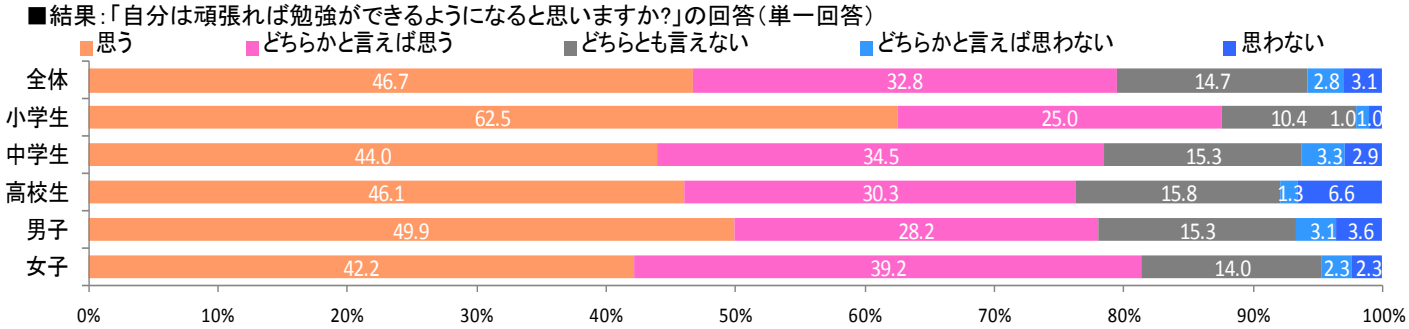
■結果:「上記の学習の仕方は、大人になって働くときに役立つ能力を身につけることができると思いますか?」の回答(単一回答)



3）小中高生の 8 割が「自分は頑張れば勉強ができる」、男女別では女子がより高い傾向

小中高生に対して、自分は頑張れば勉強ができるようになると思うか聞いたところ、「思う」計が 79.5%（「思う」（46.7%）、「どちらかと言えば思う」（32.8%））と、ほぼ 8 割に達しており、頑張れば勉強ができると自負している傾向が見られました。学校種別で「思う」計の割合を比較すると、小学生は 87.5%、中学生は 78.5%、高校生は 76.4%と、下の学年のほうが「自分は頑張れば勉強ができる」と思っている傾向が強く、潜在的な学力を含め、学力における自己肯定感は強い傾向が見られます。また、性別でみると、男子は 78.1%、女子は 81.4%で、男子より女子のほうが自分の学力、もしくはその伸びしろに自信を持っているようです。

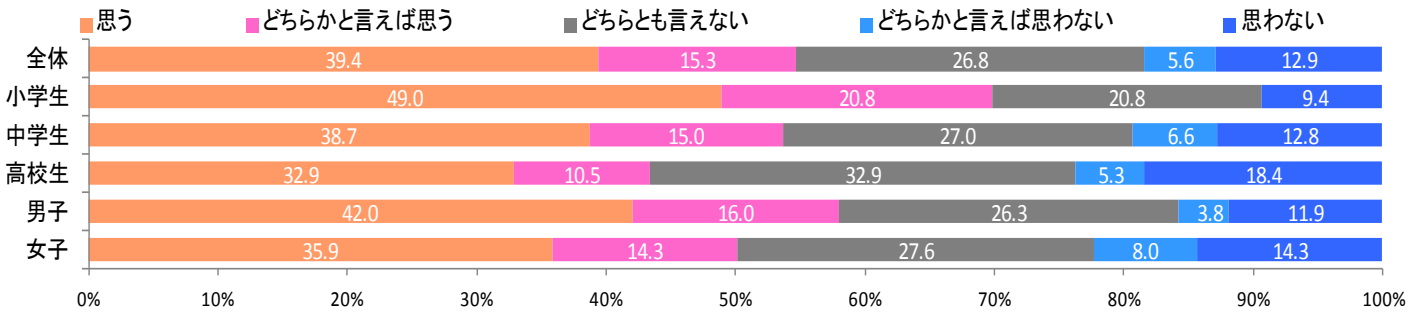
■結果：「自分は頑張れば勉強ができるようになると思いますか?」の回答（単一回答）



4）小中高生の半数以上が「親よりランクの高い学校に行きたい」

小中高生に対し、親よりランクの高い学校に行きたいと思うかとの問では、「思う」計が 54.7%（「思う」（39.4%）、「どちらかと言えば思う」（15.3%））と、小中高生の半数以上は親より高い学歴を望んでいる傾向が見られます。しかし、学校種別に見てみると、「思う」計が小学生は 69.8%、中学生は 53.7%、高校生は 43.4%で、年齢が上がるほど割合は減っており、高校生では約 4 割となっています。これは親と比較するのではなく、自分の夢を叶えるための学校選びをしようという気持ちが強いのかもしれません。また、性別でみると、「思う」計は、男子は 58.0%、女子は 50.2%で、男子のほうが親を意識する傾向にあるようです。

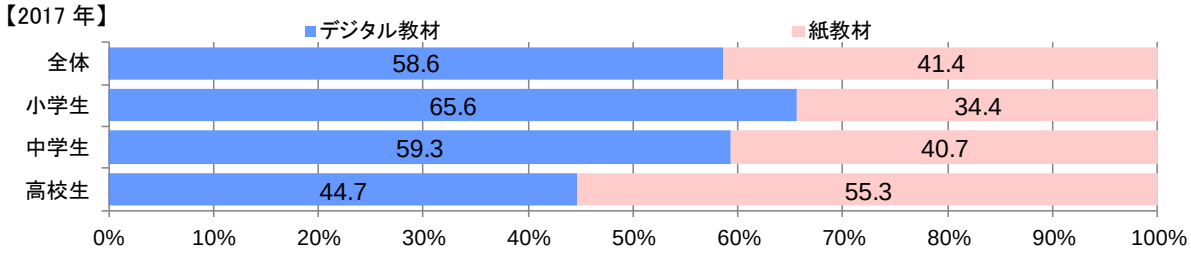
■結果：「親よりランクの高い学校に行きたいと思いますか？」の回答（単一回答）

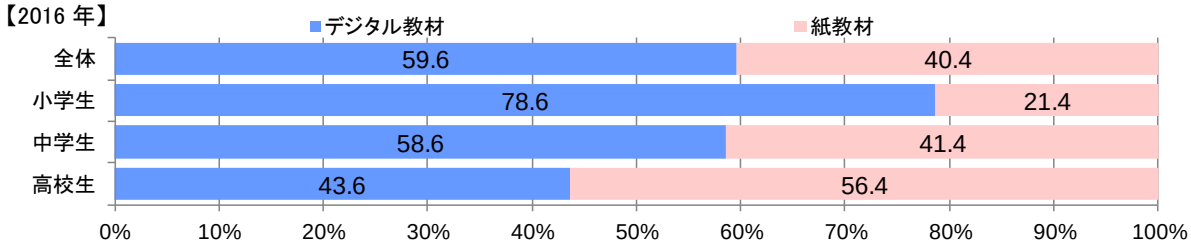


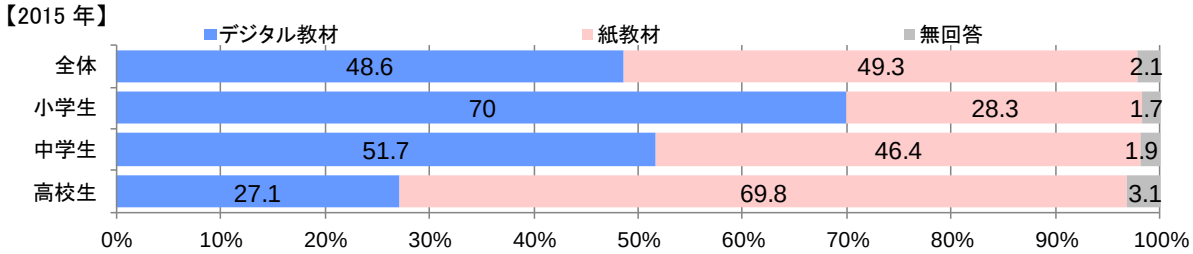
5）小中高生が勉強しやすいのは「紙教材」より「デジタル教材」

小中高生に対し、「紙教材」と「デジタル教材」では、どちらが勉強しやすいと思うか質問したところ、「デジタル教材」が 58.6%という結果となりました。2015 年発表時点では「デジタル教材」（48.6%）、「紙教材」（49.3%）で「紙教材」のほうが若干好まれていましたが、2016 年発表時点では「デジタル教材」（59.6%）、「紙教材」（40.4%）と、「デジタル教材」を好む層が拡大し、2017 年もほぼ横ばいでデジタル教材が紙教材を上回る結果となりました。

■結果：「あなた自身が勉強しやすいと思うのはどちらですか？」の回答（単一回答）







<2016 年・2015 年調査概要>

1) 調査名 ： 小中高生の「勉強」に関する意識調査
2) 調査方法 ： クラウド型学習システム「すらら」のログイン画面にて回答を得た
3) 調査対象 ： 小学 1 年生から高校 3 年生までの男女
4) 調査期間 ：【2016 年】2015 年 12 月 12 日～2016 年 1 月 7 日
【2015 年】2014 年 12 月 19 日～2015 年 1 月 20 日
5) 有効回答数：【2016 年】759 名＜男子：56.9%・女子：43.1%、小学生：14.8%・中学生：71.9%・高校生：13.3%＞
【2015 年】659 名＜男子：57.8%・女子：42.2%、小学生：9.1%・中学生：71.3%・高校生：19.6%＞

6）小中高生が勉強を教えてほしい芸能人、3 年連続「櫻井翔」さんがトップ

小中高生に勉強を教えてほしい芸能人を聞いたところ、トップ 3 は「櫻井翔」さん、「カズレーザー」さん、「中田敦彦」さん、という結果になりました。トップの櫻井翔さんは 2015 年、2016 年発表の同調査に続いて、今回 3 度目の 1 位獲得となりました。櫻井さんはアイドルでありながら報道キャスターも務めていらっしゃり、面白さと知的さが兼ね備わっていることから、小中高生の支持を得ているのではと考えられます。加えて、カズレーザーさんは個性的な芸風、中田敦彦さんは音楽グループとしても話題になりましたが、それに加え高学歴といったように、トップ 3 の皆さんはギャップを持っていることが選ばれた要因ではないかと思われます。

■結果：「勉強を教えてほしい芸能人は誰ですか？」の回答　（単一回答）

順位	全体	%	男子	%	女子	%
1	櫻井翔（嵐）	18.6%	カズレーザー（メイプル超合金）	17.4%	櫻井翔（嵐）	20.6%
2	カズレーザー（メイプル超合金）	12.8%	櫻井翔（嵐）	17.2%	マツコ・デラックス	8.6%
3	中田敦彦（オリエンタルラジオ）	10.6%	中田敦彦（オリエンタルラジオ）	13.6%	カズレーザー（メイプル超合金） 中田敦彦（オリエンタルラジオ）	6.3%

※敬称略

■クラウド型学習システム「すらら」とは

【学習範囲】小学校高学年～高校 3 年生までの学習指導要領に準拠
【対応教科】英語・数学（算数）・国語
【利用者数】約 38,000 名（2016 年 10 月末現在）
【特徴】

〇Point 1 スモールステップでわかりやすいインタラクティブ授業

1 つの単元は 10 から 15 分程度で、小さな階段を少しずつ上るような構成。
しかも授業は一方的ではなく、随所で先生役のキャラクターが問いかけを行い、問題に答えていくというインタラクティブスタイル。そのため、飽きることなく、適度な緊張感を持続し、楽しみながら学習を進めていくことが可能。

〇Point 2 難易度調整や弱点診断ができる演習ドリル

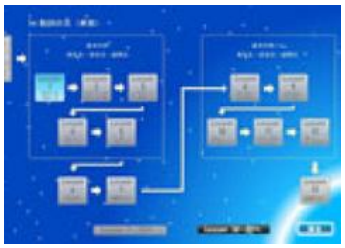
一人ひとりの理解度に応じて出題される問題の難易度を調整する「出題難易度コントロールシステム」を搭載。「簡単すぎず難しすぎない」問題が出題されることで、達成感を感じ自信を深めながら、学習を進めることが可能に。また、何がわからないから問題が解けないのか理由を探る「弱点自動判別システム」も搭載。

〇Point 3 現役の塾の先生による手厚いフォロー

いつまでにどこまでの学習をするかといった「月 1 回の目標設定」や、つまずいているところがないか「週 1 回程度の電話やメールでの進捗確認」など、継続して取り組めるよう現役塾講師がフォロー。また、クラウド型学習だからこそ、学習内容や正答率・解く速さなども詳細に把握できるので、お子様一人ひとりに応じたきめ細やかな学習指導が可能。

＜参考＞これまでの e ラーニング教材の大半は以下の 3 パターン
1. 動画配信型：カリスマ講師のレクチャービデオを視聴するタイプ
「理解」にはすぐれているが「反復」の部分がないためやりっぱなしになってしまい、実力が身につかない傾向がある。また、一方的な説明となるため、 比較的意識の高いお子様でないと、集中力が続かない。
2. 問題集型：問題集の結果をパソコンに打ち出して結果分析をするタイプ
「定着」にすぐれているが「理解」の部分がないため、学力の高い生徒でないと一人で学習を進めることが困難な傾向がある。
3. ゲーム型：携帯用ゲーム機などを使って学習するタイプ
非常に楽しく学習できるが、単語など反復による暗記系が中心で、体系的な学習には不向き。

「すらら」はこうしたそれぞれの短所を補い、長所を相乗効果的に組合せた、理想の″次世代型教育システム″です。



■「すらら」の“アダプティブ・ラーニング”機能

生徒の解答結果から独自のアルゴリズムにより苦手部分を分析・特定し、生徒それぞれに最適化した学習すべき解説や問題を自動で提示する機能。学習者が苦手分野を自分で克服できるようにする。

■「すらら」における“人工知能”

AI が生徒の学習データに基づき先生の替わりに生徒と対話を行う機能「AI サポーター」で、生徒のモチベーションに与える効果について慶応義塾大学 中室牧子研究室と共同研究を実施中。

■ 株式会社すらら ネット 会社概要

〇 設立：2008 年 8 月 〇資本金：13,795 万円 〇所在地：東京都千代田区内神田
〇 事業内容：クラウド型学習システムによる教育サービスの提供および運用コンサルティング、
マーケティングプロモーション及びホームページの運営
〇 会社 URL： http://surala.jp/
〇 受賞歴：・第 9 回日本 e-Learning 大賞 文部科学大臣賞(2012 年)
・Japan Venture Awards 2014 中小機構理事長賞(2014 年)
・第 2 回 「日本ベンチャー大賞」社会課題解決賞（審査委員会特別賞）（2016 年）
・第 8 回「千代田ビジネス大賞」大賞(2016 年)